



# 八丈町小児予防接種スケジュール一覧表（令和5年度～）

	種類	ワクチン	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	11ヶ月	1歳	18ヶ月	2歳	3歳	4歳	5歳	備考	
定期 予 防 接 種	不活化	ヒブ（hib）		①	②	③								④						3回目接種から7月以上あけて4回目接種	
	不活化	小児用肺炎球菌（13価ワクチン）		①	②	③								④						3回目接種から60日以上あけて1歳以降に4回目接種	
	不活化	B型肝炎		①	②				③											定期接種期間は1歳未満 1歳以降は任意予防接種	
	生（経口）	ロタテック		①	②	③														5価ワクチン 八丈町では基本ロタテック使用	
		ロタリックス		①	②															1価ワクチン	
	不活化	四種混合（DPT-IPV）		①	②	③									④					3回目接種から約1年後に4回目接種	
	生	BCG					①														
	生	麻しん・風しん混合（MR）													①					②	第1期接種：生後12月～24月 第2期接種：保育園年長相当
	生	水ぼうそう（水痘）													①	②					初回接種から約6月あけて2回目を接種
	不活化	日本脳炎																① ②	③		初回対象：3歳 追加接種：4歳 2期接種：9歳
不活化	二種混合（DT）																			小学6年生相当	
任意	生	おたふくかぜ												①						②	確実な免疫をつけるなら、3年～5年後に2回目接種 問合せは町立八丈病院へ

	標準的な接種期間	予防接種法で推奨する標準的な接種期間
	八丈町実施接種スケジュール	八丈町で実施している基本となる接種スケジュール（1歳まで）
	定期予防接種の対象年齢（月齢）	定期予防接種として接種可能（無料）期間 この期間を逃して接種希望の場合は任意接種（個人負担）となります。
不活化ワクチン	・・・ 病原体となるウイルスや細菌の感染能力を失わせた（不活化・殺菌）ものを原材料として作られたワクチン	
生ワクチン	・・・ 病原体となるウイルスや細菌の毒性を弱めて病原性をなくしたものを原材料として作られたワクチン	

令和2年10月より＜異なるワクチンの接種間隔＞について変更がありました。

①不活化ワクチン ⇔ 不活化ワクチン（経口生ワクチン） ⇒ 制限なし ②注射生ワクチン ⇔ 不活化ワクチン（経口生ワクチン） ⇒ 制限なし

③注射生ワクチン ⇔ 注射生ワクチン ⇒ 27日以上あけて接種（変更なし）

※同ワクチンについては接種間隔がそれぞれ決まっているので、通知・配布された予防接種案内文をお読みください

# 八丈町における定期予防接種（小児）について

【接種会場】  
町立八丈病院小児科

【集団接種実施時間】  
13時30分～15時30分 （予防接種の種類、接種予定者数によって変更することがあります）

【予防接種に必要なもの】  
・母子手帳 ・予診票 ・診察券（町立八丈病院）※令和3年4月～

【接種費用について】  
無料（保護者負担なし） （基本は無料ですが、定期予防接種期間から外れた場合は任意予防接種（有料）になります）

【予約制個別予防接種について】  
八丈町では、集団予防接種の機会を逃してしまった方のために予約制の個別予防接種を毎月2回設けています。

- ・実施日時  
毎月、第2・第4木曜日 14時～16時 ※集団接種と同時実施  
（祝日等により変更あり、詳しくは毎月発行の広報をご覧ください）
- ・予約締切日  
予防接種実施日の1週間前の17時15分まで
- ・予約、問い合わせ先  
福祉健康課保健係 TEL 04996-2-5570

【通知方法について】  
1歳までのお子様には予防接種担当者が個別にスケジュールを作成し、お渡しします。  
1歳以降の定期予防接種対象となっているお子様には事前に個別通知します。  
なお、1歳以降のお子様でも希望される方には予防接種担当者がスケジュールのご相談に応じます。  
下記問い合わせ先までお問い合わせください。

【定期予防接種問い合わせ先】  
福祉健康課保健係 TEL 04996-2-5570

【任意予防接種問い合わせ先】  
町立八丈病院 TEL 04996-2-1188

# 予防接種と感染症について

## 【定期予防接種（小児）】

ヒブ

### ・ヒブ（インフルエンザ菌b型）とは？

人から人に飛まつ感染します。感染するとかぜのような症状を示しますが、まれに脳と脊髄を包む膜に炎症（髄膜炎）をおこすことがあります。ヒブワクチン導入以前は、日本ではヒブによる髄膜炎は一年間に400人くらいが発症し、そのうち約25%に永続的後遺症が残り、約5%が死亡すると考えられていました。しかし、ヒブワクチンの導入により髄膜炎の発症率は約98%減少したと報告されています。診断・治療が非常に難しい感染症ですが、ワクチン接種で予防することが可能です。

### ・接種回数と間隔（通常）

生後2ヶ月から接種可能。接種間隔を27日以上あけて初回3回を接種。3回目接種後7月～13月の間隔をあけて4回目接種。  
※接種開始月齢によって接種回数が変わります。詳しくは町役場福祉健康課保健係までお問合せください。

小児用肺炎球菌

### ・小児用肺炎球菌とは？

肺炎球菌がひきおこす主な感染症は、化膿性髄膜炎、菌血症、肺炎などの重い全身性の感染症や中耳炎、副鼻腔炎などの気道感染症があります。特に、肺炎球菌による子どもの化膿性髄膜炎は、初期症状がかぜに似ているため判別が難しいだけでなく、後遺症を残しやすく、死亡例も多いことが知られています。化膿性髄膜炎にかかる子どもの半分以上は0歳児であり、6ヶ月を過ぎると発症が増え、5歳ごろまでリスクがあります。近年は、ペニシリンなどの抗菌薬が効きにくい肺炎球菌が増えているため、治療が困難になってきています。そこでワクチンによる予防が特に大切になってきています。

### ・接種回数と間隔（通常）（平成25年11月より13価ワクチンを使用しています）

生後2ヶ月から接種可能。接種間隔を27日以上あけて初回3回を接種。3回目接種後60日以上の間隔をあけて1歳に達してから4回目接種。  
※接種開始月齢によって接種回数が変わります。詳しくは町役場福祉健康課保健係までお問合せください。

四種混合（DPT-IPV）

### ・四種混合で予防できる感染症とは？

#### 【ジフテリア】

ジフテリアは、国内ではほとんど発症をみていませんが、ロシアなどで以前流行がありました。かかると重い病気で呼吸困難をおこし、死亡に至る場合もあります。心臓や神経がおかされ心臓麻痺や神経麻痺をおこすことがあって、大変危険です。ワクチンで予防できます。

#### 【破傷風】

破傷風は、ケガをしたときに傷口から破傷風菌が入っておこる病気です。傷口が小さくても危険です。破傷風菌の出す毒素は、神経麻痺、筋肉の激しいけいれんや呼吸困難などをおこします。発病した場合は、死亡率が高い病気で、予防はワクチン接種が最も有効です。

#### 【百日せき】

百日せきは百日せき菌の飛沫感染でおこり、普通のかぜのような症状で始まり、続いてせきがひどくなり、顔をまっ赤にして連続性にせきこむようになります。熱は出ません。乳幼児はせきで呼吸ができず、けいれんがおこることがあります。肺炎や脳症などの重い合併症をおこし、乳児では命を落とすこともあります。

#### 【ポリオ】

ポリオは「小児まひ」とも呼ばれ、ポリオウイルスによって四肢に麻痺をおこす病気です。わが国ではワクチンの高い接種率により自然感染による患者発生はありません。しかし、一部の国では今でもポリオの流行があり、このウイルスがいつ国内に入ってくるかわかりません。また、それらの国々に出かける時に抗体がないと感染する危険があります。そのため現在でもポリオワクチンによる予防は欠かせません。

### ・接種回数と間隔（通常）※令和5年4月より接種開始時期変更 生後3か月→生後2か月

生後2ヶ月※から接種可能。接種間隔を20日以上あけて初回3回を接種。3回目接種後12月～18月の間隔をあけて4回目接種。

B  
型  
肝  
炎

・B型肝炎とは？

B型肝炎ウイルスに感染しておこる肝臓の病気です。ウイルスに汚染された血液や体液などを介して感染します。ウイルスの持続感染者をキャリアと呼び、将来、慢性肝炎・肝硬変・肝がんになる可能性が高く、5歳未満の乳幼児期に感染するとキャリアになる率が高いことも知られています。ワクチンによる予防が大切です。

・接種対象者、接種回数と間隔（平成28年10月より定期化）

【接種対象者】

生後2ヶ月から1歳に至るまでが定期予防接種対象者

※母子感染予防として出生後にB型肝炎の接種を受けた方は定期接種対象外

【接種回数と間隔】

接種間隔を27日以上あけて初回2回を接種。1回目接種後139日以上の間隔をあけて3回目接種。

ロ  
タ  
ウ  
イ  
ル  
ス  
感  
染  
症

・ロタウイルス感染症とは？

ロタウイルスによって引き起こされる急性の胃腸炎で、乳幼児期（0～6歳ころ）にかかりやすい病気です。ロタウイルスは感染力が強く、ごくわずかなウイルスが体内に入るだけで感染してしまいます。ふつう、5歳までにほぼすべての子どもがロタウイルスに感染するといわれています。大人はロタウイルスの感染を何度も経験しているため、ほとんどの場合、軽い症状ですむか、症状が出ません。しかし、乳幼児は、激しい症状が出る 경우가多く、特に初めて感染したときに症状が強くなります。主な症状は、水のような下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛です。脱水症状がひどくなると点滴が必要となったり、入院が必要になることがあります。5歳までの急性胃腸炎の入院患者のうち、40～50%前後はロタウイルスが原因です。特異的な治療法はなく、予防にはロタウイルスワクチンの接種を受けることが最も効果があるとされています。

・ロタウイルスワクチンについて

ロタウイルスワクチンには次の2種類のワクチンがあります。

①ロタテック（5価ワクチン）・・・1回 2mL 経口生ワクチン／3回接種 ※八丈町では基本ロタテックを使用しています

②ロタリックス（1価ワクチン）・・・1回1.5mL 経口生ワクチン／2回接種

※両ワクチンともに吐き出した場合、再投与は必要ありません

・副反応（腸重積症）について

腸重積症は、ロタウイルスワクチンの接種に関わらず、乳幼児が罹患することのある疾患で、まれな病気ではありません。

0歳児は、月齢が進むと腸重積症という病気にかかりやすくなります。腸の一部が隣接する腸管にはまり込み、腸の血流が悪くなることで腸の組織に障害をおこすことがあるため、速やかな治療が必要となります。接種を受けた後に腸重積症を発症する可能性もあるため、特に接種を受けてから約1～2週間の間に「突然はげしく泣く」、「機嫌が良かったり不機嫌になったりを繰り返す」、「嘔吐する」、「血便が出る」、「ぐったりして顔色が悪い」などの症状が一つでもみられた場合や、いつもと様子が違うと感じた場合は速やかに医療機関を受診してください。

・接種対象期間、接種間隔（令和2年10月より定期化）※令和2年8月1日以降に生まれた方が対象

接種対象期間は生後6週から32週（ロタリックスは24週）

初回接種は通常、生後2か月～14週6日までに接種 ※15週以降の初回接種は副反応等の安全性の観点からお勧めしていません。

接種間隔は27日以上の間隔をあけて接種（回数は上記のとおり）

B  
C  
G

・BCGとは？

BCGとは結核を予防するワクチンです。結核は決して過去の病気ではありません。現在も毎年2万人の人が発病し、約2千人が死亡しています。油断できない重要な感染症です。特に、乳幼児がかかると予後が悪い結核性髄膜炎や粟粒結核をおこすことがあるので注意が必要です。自然感染による発病を防ぐため、BCGワクチンの接種を早めに受けましょう。

・接種対象期間

生後1歳に達するまでに接種しますが、標準的な接種期間は生後5ヶ月～8ヶ月に達するまでの間です。



麻しん風しん混合	<p><b>麻しん風しん混合（MR）で予防できる感染症とは？</b>  <b>【麻しん（はしか）】</b>  麻しんは麻しんウイルスの空気感染によっておこり、感染力が強く予防接種を受けないと多くの人がかかる病気です。麻しんにかかると39～40℃の高熱と発しんがみられ、ときに肺炎・中耳炎・気管支炎・脳炎などの合併症を併発し死亡することもあります。麻しんにかかった人は数千人に1人の割合で死亡します。予防はワクチン接種以外ありません。日本は平成27年までに国内から麻しん排除を目指しています。</p> <p><b>【風しん】</b>  風しんは風しんウイルスの飛沫感染によっておこり、発しん、発熱、後頸部リンパ節腫脹を主な症状とする感染症です。風しんにかかると、ときに関節痛・血小板減少性紫斑病・脳炎などの合併を併発することがあります。また、免疫のない妊婦が妊娠初期にかかると白内障・心疾患・難聴等の症状をもつ先天性風疹症候群児を出生することがあります。予防はワクチン接種以外にありません。</p> <p>• <b>接種回数と間隔</b>  1歳になったら第1期接種を1回、小学校入学前1年間（保育園年長相当）に第2期接種を1回。合計2回接種</p>
水痘	<p>• <b>水痘（みずぼうそう）とは？</b>  水痘は感染力の強い水痘帯状疱疹ウイルスによっておこる病気です。発熱、発しんが主な症状で、なかには重症化し入院する場合があります。特に白血病児やネフローゼ患児等でステロイド剤などを服用し免疫状態の悪い小児がかかると重篤になりやすく症状によっては大変危険です。妊婦がかかると妊娠初期では流産したり、妊娠後期では新生児が死亡したりすることもあります。ワクチンによる予防が大切です。</p> <p>• <b>接種対象者、接種回数と間隔（平成26年10月より定期化）</b></p> <p><b>【対象者】</b>  生後12月から36月（1歳と2歳）に至るまでの水痘既往歴の無い者が対象</p> <p><b>【接種回数と間隔】</b>  1歳になったら初回接種を行い、初回接種終了後6月～12月の間隔をあけて2回目接種</p>
日本脳炎	<p>• <b>日本脳炎とは？</b>  日本脳炎は蚊（コガタアカイエカ）が媒介するウイルスでおこる病気です。夏から秋にかけて流行し、発病しますと高熱・頭痛・嘔吐・意識障害やけいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。患者の約50%に知覚障害や運動障害の後遺症を残し、約15%は死亡するといわれる恐ろしい感染症です。予防はワクチン接種を受けて免疫をつけることが最も効果的です。</p> <p>• <b>接種回数と間隔（通常）</b>  標準的には3歳児に6日～28日までの間隔で2回接種（第1期初回2回）、翌年4歳児に1回追加接種（第1期追加1回）を受け、9歳児に1回追加接種（第2期）します。（合計4回接種）  ※日本脳炎は平成17年から21年まで積極的な接種勧奨が控えられていましたが、平成22年度から勧奨を再開しました。毎年度、対象者を年度の初めに周知しています。詳しくは福祉健康課保健係までお問合せください。</p>
二種混合	<p>• <b>二種混合（DT）とは？</b>  三種混合及び四種混合4回接種を第1期とし、補助接種として二種混合（【ジフテリア】・【破傷風】）を1回接種する（第2期）</p> <p>• <b>接種対象者</b>  三種混合及び四種混合の第1期の接種歴のある小学校6年生相当  ※三種混合及び四種混合の第1期を接種していなくても対象となるが、接種をしても抗体がつく可能性は低い。</p>

### ・子宮頸がんとは？

子宮頸がんは子宮の入り口付近にできるがんで、最近では20～30代の若年層で増加傾向にあります。子宮頸がんは、発がん性のヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの感染によってひきおこされます。HPVは性交経験があれば誰でも感染する可能性があるウイルスで、感染自体は決して特別なものではありません。また、感染してもほとんどの場合は自然に排除されます。ウイルスが排除されずに長期間感染が続く場合、5～10年以上の年月を経て、子宮頸がんを発症します。HPVは、子宮頸がんのほかにも、外陰がん、膣がん、尖圭コンジローマ（性器にできる鶏冠状のいぼ）などの病気もひきおこします。

### ・接種対象者、接種回数と間隔、接種方法

#### 【対象者】

12歳となる年度初め（小学6年生相当）～16歳となる年度末（高校1年生相当）までの女子。標準的な接種期間は中学1年生

#### 【接種回数と間隔および接種方法】※八丈町では4価ワクチン（ガーダシル）を使用

1月以上の間隔をあけて2回接種し、2回目より3月以上あけて1回接種（合計3回接種）、子宮頸がんワクチン0.5mLを**筋肉内注射**

**※令和4年4月より積極的な勧奨が再開となりました。差し控えていた期間の対象者も経過措置として接種することができます。**

経過措置対象者：平成9年4月2日から平成18年4月1日生まれの女性

差し控え期間中に子宮頸がんワクチンを接種（自費）された方への償還払い制度もあります。

詳しくは福祉健康課保健係へお問合せください。

## 【そのほかの定期予防接種（成人）】

### ・インフルエンザとは

インフルエンザは普通のかぜとは違います。感染力が非常に強く症状の重い呼吸器の病気で、ときに世界的な大流行をおこします。

肺炎・急性中耳炎・脳症等の合併症をおこして重症化する場合があります。

予防にはワクチン接種が有効で、重症化を防ぐことができます。そのため、特に乳幼児や高齢者、慢性疾患を持つ人達に接種が勧められています。

### ・定期予防接種対象者

65歳以上の人および60歳以上65歳未満の人で心臓、じん臓、呼吸器などに重い病気のある人など

※八丈町では65歳以上の町民に対し、補助を行なっています（補助金額は広報等で周知いたします）詳しくは福祉健康課保健係まで

### ・成人肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌がひきおこす主な感染症としては、肺炎、髄膜炎、菌血症、気管支炎、中耳炎などがあります。肺炎球菌は肺炎の原因となる細菌として頻度が高く、高齢者や慢性呼吸器疾患などを有する人では、肺炎にかかりやすく症状も重くなりやすいことが知られています。

近年は、ペニシリンなどの抗菌薬が効きにくい肺炎球菌が増えているため、治療が困難になってきています。

そこでワクチンによる予防が特に大切になってきています。

### ・対象者、接種回数（平成26年10月より定期化）

対象者：①当該年度内に、65歳・70歳・75歳・80歳・85歳・90歳・95歳となるもの

②60歳以上65歳未満の人で心臓、じん臓、呼吸器などに重い病気のある人など

※八丈町では65歳以上の町民に対し、接種1回あたり一律3,000円の補助を行なっています。詳しくは福祉健康課保健係まで